

PROLOGUE

木二中 学校だより No.26 令和6年11月14日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



DEEP FAKE(ディープフェイク)で誰もが加害者にも被害者にもなる時代に

インターネットで「ディープフェイク」と検索してみてください。Webだけでもおよそ800万件、画像検索だけで30億以上ヒットします。(10/31現在)

生成AIを用いて作り出された偽の動画や音声、あるいはその技術のことを「ディープフェイク」と呼びます。生成AIが飛躍的に普及した現代において、誰もが加害者にも被害者にもなり得る「ディープフェイク」が新たなサイバー脅威として世界中に広まっているという報道について、私はかねてから気にはしていました。韓国では「ディープフェイク」の技術を悪用した性的な偽の画像などが通信アプリで拡散され深刻な社会問題となっていることを受けて、作成だけでなく所持したり、視聴したりした場合についても処罰の対象にするさらなる対策強化の法案が可決されました。

国内における最近のニュースに目を向けると、オンライン投資詐欺が記憶に新しいところでしょうか。警視庁の調査によれば、2023年度のSNS型投資詐欺の被害額は約277億円に達しており、著名人の名前や肖像が無断で使用され、詐欺に悪用されるケースが多発しているとのこと。あたかも著名人たちが自ら語りかけているような偽動画は言うまでもなく、著名人の偽音声も作成できてしまうそうです。10月30日には、著名人数名が、なりすまし広告による被害について、メタ社(旧フェイスブック)を提訴した(29日)ことがニュースにもなりました。なんという時代なのでしょう…。

嘆いていても事態の打開は図れませんね。中学生の皆さんは、この問題をどう考えますか？ どうしたらこの問題が改善に向かうと思いますか？ 自分事として考えてみてください。自分の身の回りにディープフェイクの問題が起こったらどのように対処しますか？

このディープフェイク問題は、小中学生ですら加害者にも被害者にもなり得る、決して他人事とは言えないところまで迫ってきているということを皆さんは知っておく必要があります。

元々ディープフェイクアプリは、画像や動画、音声などを簡単に合成することができるアプリケーションとして開発されたもの。昔のように写真や動画を編集するのに大がかりな機材を用いる必要はなく、誰でも簡単に「フェイク」画像や動画、音声が作れてしまう優れもの。誰でも作れてしまうと言っても、その作業はすべてAIが行い、既存の写真や動画ばかりでなく、オンラインでいつでもどこでも顔交換ができるのだとか…。しかも瞬時に複数の顔入れ替えもできるという…。そりゃ使い方を間違えれば、顔を入れ替えて著名人になりすましてオンライン投資詐欺に利用したり、地震の被災地に動物園から逃げ出したライオンの動画を作成し拡散させたりといった不届き者が現れるわけですよね…。

本来、この類いのアプリは、家族や仲間内(仲間内と言っても本当に、本当に気心が知れているごく少数の仲間内に限られると思いますが)で遊ぶために開発されたエンターテインメント性の高いアプリであるはず。中にはエンターテインメントではなく、化粧品会社やアパレル業界のように自社製品開発のために必要なツールとして用いられている場合もあるかもしれません。当たり前であると信じたいところですが、アプリ開発者だってまさか犯罪や、他者を騙すツールとして使用されることは想定していないでしょう。

しかしながら、PROLOGUE No. 23に記したように、世の中には一定数の悪い人たちがいるもの。まさにまだ世の中の右も左もわからない皆さん中学生は、これから先大多数の正しい人たちでいるのか、一定数の悪い人たちになるのかの岐路に立たされていると言っても決して大げさな言い方ではないと私は考えています。中学生の今だからこそ、そして予測不可能な時代(=新しい時代)だからこそ、AIとの共存生活に対応できるよう課題や疑問に対して自ら考える力を育てる教育が必要とされ、物事の本質を見極める力や、自ら課題を設定し解決できる力を身につけることが必須なんだと強く思っています。

昨年度の学校だより INSIDE OUT No. 37をもう一度読み返してみてください。自身の主観や先入観を一旦捨て去り、「本当にこれでいいの？」とか「何でこうなるの？」とか、自分で自分の考え(悪い思考の癖とか)を否定するところにフォーカスされるクリティカルシンキング(批判的思考)をもって、自分に対して「間違っているかもしれない」と物事の本質に迫ろうとする姿勢がディープフェイクを見抜く力につながるのではないのでしょうか。ファクトチェックスキルが高まれば、ディープフェイクなんかで誰もが加害者にも被害者にもなるわけがない。そう信じたいところです…。